RIPたばこ等による火災低減効果について

<u>実験目的</u>

着火したRIPたばこと非RIPたばこが圧縮された敷布団(綿100%及び綿70%ポリエステル30%の2種類を使用)に接触した場合の敷布団の燻焼率等について比較検証する。

実験装置概要



第1実験(実験条件等)

実験目的

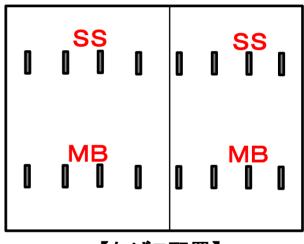
比較検証実験に先立ち、使用する敷布団の圧縮厚を決定するため、非RIPたばこによる敷布団の 燻焼率が概ね50%となる圧縮厚を求める。

実験条件

たばこ: セブンスター(SS)・マールボロライトメンソールボックス(MB) 敷布団:綿100%及び綿70%ポリ30%の2種類を使用

実験概要

たばこを機械的に吸引し先端から5mmまで燃焼させ、吸引を止め、空中に保持した状態でさらに10mmを燃焼させた後、 圧縮された敷布団の上(各枠内)に静かに放置する。すべての枠内にたばこ(計16本)を左図のように配置したのち、各たばこが燃え止まるまでに燻焼が発生するか観察する。燻焼率が概ね50%となるまで少しづつ厚さを変えて実験を行い、圧縮厚を求める。



【たばこ配置】

第1実験(実験結果)

- ・綿100%の敷布団については、65mmまで圧縮した際に燻焼率が、 約5割となった。
- ・綿70%ポリ30%の敷布団については、圧縮限界の15mmまで圧縮しても燻焼率が25%と5割に達しなかった。

第2実験の敷布団の圧縮厚は以下のとおり決定

·綿100%の敷布団:<u>65mm</u>

•綿70%ポリ30%の敷布団:15mm

敷布団の種類		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
綿100%	圧縮厚	15mm	50mm	100mm	80mm	75mm	65mm	70mm	65mm
が即10070	燻焼率	100%	94%	6%	38%	25%	69%	38%	44%
綿70%	圧縮厚	20mm	15mm						
ホ [°] リ30%	燻焼率	19%	25%	_	_	_	_	_	_

第2実験(実験条件等)

実験目的

第1実験で決定した圧縮厚(綿65mm/綿ポリ15mm)により、 各敷布団でRIPたばこと非RIPたばこの燻焼率等を求める。

実験条件

たばこ:第1実験で使用した非RIPたばことアメリカで調達した

MARLBORO Silver King Size (RMB)

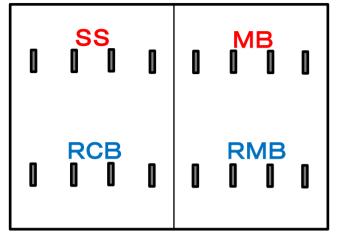
CAMEL BLUE (RCB)を使用

敷布団:綿100%及び綿70%ポリ30%の2種類を使用

* 試験員の健康への影響を考慮し、途中で排気風量を変更

実験概要

敷布団へたばこを放置する前に空中で立消えた本数、敷布団上でたばこが全長燃焼せずに消えた置消本数、布団が燻焼するに至った本数についてまとめた。



【たばこ配置】

※配置は敷布団1枚ごとにローテーションする。







立消 (布団へ置く前に消火したもの)



(布団へ置いた後に消火したもの)



燻焼

第2実験(実験結果①)

実験期間(平成25年1月16日~1月23日)

	たばこ	立消数/	/点火数	置消数/	/放置数	燻焼数/	放置数
	/51& C		割合		割合		割合
	SS	0/120	0.0%	0/120	0.0%	58/120	48.3%
綿100%	МВ	0/120	0.0%	2/120	1.7%	49/120	40.8%
敷布団	RCB	24/181	13.3%	15/120	12.5%	42/120	35.0%
	RMB	6/180	3.3%	10/120	8.3%	48/120	40.0%
綿70%ポリ30% 敷布団	SS	0/112	0.0%	0/112	0.0%	5/112	4.5%
	МВ	0/112	0.0%	0/112	0.0%	5/112	4.5%
	RCB	28/169	16.6%	52/112	46.4%	3/112	2.7%
	RMB	16/168	9.5%	11/112	9.8%	5/112	4.5%

* 1 非RIPたばこ SS:セブンスター MB:マルボロライトメンソールボックス RIPたばこ RCB:CAMEL BLUE RMB:MARLBORO Silver King Size

- *2 RIPたばこは、立消える分を考慮して、通常のたばこより多く点火した。
- *3 RIPたばこは、立消しなかったタバコのうち、実験に必要な数を布団上に放置した。

たばこの種別に着目した実験結果分析①

綿100%敷布団

置消について

	置消	非置消	合 計
非RIPたばこ	2	238	240
RIPたばこ	25	215	240
合 計	27	453	480

たばこの違いに有意差有り(P=0.000)

燻焼について

	燻焼	非燻焼	合 計
非RIPたばこ	107	133	240
RIPたばこ	90	150	240
合 計	197	283	480

たばこの違いに有意差無し(P=0.138)

綿70%ポリ30%敷布団

置消について

	置消	非置消	合 計
非RIPたばこ	0	224	224
RIPたばこ	63	161	224
合 計	63	385	448

たばこの違いに有意差有り(P=0.000)

燻焼について

	燻焼	非燻焼	合 計
非RIPたばこ	10	214	224
RIPたばこ	8	216	224
合 計	18	430	448

<u>たばこの違いに有意差無し(P=0.811)</u>

第2実験(実験結果②)

実験期間(平成25年2月4日~3月6日) *換気風量変更後

	たばこ	立消数/	/点火数	置消数/	/放置数	燻焼数/	放置数
	たはし		割合		割合		割合
	SS	0/180	0.0%	0/180	0.0%	98/180	54.4%
綿100%	МВ	0/180	0.0%	0/180	0.0%	114/180	63.3%
敷布団	RCB	5/270	1.9%	2/180	1.1%	88/180	48.9%
	RMB	1/270	0.4%	0/180	0.0%	102/180	56.7%
	SS	0/188	0.0%	0/188	0.0%	19/188	10.1%
綿70%ポリ30% 敷布団	МВ	0/188	0.0%	0/188	0.0%	23/188	12.2%
	RCB	7/282	2.5%	41/188	21.8%	10/188	5.3%
	RMB	3/282	1.1%	5/188	2.7%	18/188	9.6%

* 1 非RIPたばこ SS:セブンスター MB:マルボロライトメンソールボックス RIPたばこ RCB:CAMEL BLUE RMB:MARLBORO Silver King Size

- *2 RIPたばこは、立消える分を考慮して、通常のたばこより多く点火した。
- *3 RIPたばこは、立消しなかったタバコのうち、実験に必要な数を布団上に放置した。

たばこの種別に着目した実験結果分析②

綿100%敷布団

置消について

	置消	非置消	合 計
非RIPたばこ	0	360	360
RIPたばこ	2	358	360
合 計	2	718	720

たばこの違いに有意差無し (P=0.499)

燻焼について

	燻焼	非燻焼	合 計
非RIPたばこ	212	148	360
RIPたばこ	190	170	360
合 計	402	318	720

<u>たばこの違いに有意差無し(P=0.115)</u>

綿70%ポリ30%敷布団

置消について

	置消	非置消	合 計
非RIPたばこ	0	376	376
RIPたばこ	46	330	376
合 計	46	706	752

たばこの違いに有意差有り(P=0.000)

燻焼について

	燻焼	非燻焼	合 計
非RIPたばこ	42	334	376
RIPたばこ	28	348	376
合 計	70	682	752

たばこの違いに有意差無し(P=0.102)

着火物(布団)に着目した実験結果分析①

非RIPたばこ

置消について				
	置	消	非置消	合 計
綿布団		2	238	240
綿ポリ混合		0	224	224
合 計		2	462	464

布団の違いに有意差無し(P=0.500)

燻焼について

	燻焼	非燻焼	合 計
綿布団	107	133	240
綿ポリ混合	10	214	224
合 計	117	347	464

布団の違いに有意差有り(P=0.000)

RIPたばこ

異当について

旦用に びい (
	置消	非置消	合 計
綿布団	25	215	240
綿ポリ混合	63	161	224
合 計	88	376	464

<u>布団の違いに有意差有り</u>(P=0.000)

燻焼について

	燻焼	非燻焼	合 計
綿布団	90	150	240
綿ポリ混合	8	216	224
合 計	98	366	464

<u>布団の違いに有意差有り</u>(P=0.000)

*第2実験結果①(実験期間(平成25年1月16日~1月23日))の結果から 着火物(布団)の違いに着目して分析

着火物(布団)に着目した実験結果分析②

非RIPたばこ

直消について			
	置消	非置消	合 計
綿布団	0	360	360
綿ポリ混合	0	376	376
合 計	0	736	736

<u>布団の違いに有意差無し(P=1.000)</u>

燻焼について

	燻焼	非燻焼	合 計
綿布団	212	148	360
綿ポリ混合	42	334	376
合 計	254	482	736

布団の違いに有意差有り(P=0.000)

RIPたばこ

署当について

	置消	非置消	合 計
綿布団	4	2 358	360
綿ポリ混合	4(330	376
合 計	48	688	736

<u>布団の違いに有意差有り</u>(P=0.000)

燻焼について

	燻焼	非燻焼	合 計
綿布団	190	170	360
綿ポリ混合	28	348	376
合 計	218	518	736

<u>布団の違いに有意差有り</u>(P=0.000)

*第2実験結果②(実験期間(平成25年2月4日~3月6日))の結果から 着火物(布団)の違いに着目して分析

実験結果のまとめ

発火源(たばこ)の違いについて

		立消	置消	燻 焼
実験結果①	綿100%		0	×
夫贵和朱① 	綿ポリ混合	O	0	×
実験結果②	綿100%		×	×
天殿而未 <i>生</i> 	綿ポリ混合	O	0	×

立消えについては、非RIPたばことRIPたば こに有意差がある。

置消については、実験②の綿100%の場合を除き非RIPたばことRIPたばこに有意差がある。

燻焼については、非RIPたばことRIPたばこ に有意差がない。

着火物(布団)の違いについて

		置消	燻焼
実験結果①	非RIPたばこ	×	0
天殿和朱① 	RIPたばこ	0	0
実験結果②	非RIPたばこ	×	0
关\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	RIPたばこ	0	0

置消については、RIPたばこの場合、綿 100%布団と綿ポリ混合布団に有意差があ るが、非RIPたばこの場合、有意差がない。

燻焼については、たばこの種別に寄らず綿 100%布団と綿ポリ混合布団に有意差があ る。綿ポリ布団の約9割は燻焼していない。

置消の効果について

置消の効果を検討するため、RIPたばこと非RIPたばこの燃焼継続時間を比較した。
* たばこの燃焼時間は比較検証実験動画より目視で計測した。
たばこ1本が全長燃焼する時間は平均12分(n=26)
置消するまでに燃える時間は平均6分(n=8)

平均燃焼時間=(全長燃焼した本数×12分+置消した本数×6分)÷全数

例 RMBは綿100%布団の場合、300本中、10本が置消したので、平均燃焼時間は、 (全長燃焼した本数(290本)×12分+置消した本数(10本)×6分)÷全数(300本)=11.8(分)

たばこと布団の種類ごとの平均燃焼時間一覧

	綿100%	綿ポリ混合
RIPたばこ	11.7分	10.9分
非RIPたばこ	12.0分	12.0分
RIP/非RIP	98%	91%

- RIPたばこの普及により、寝具の上でたばこが燃焼を継続する時間は、 綿100%布団の場合、 約2%低減 綿ポリ混合布団の場合、約9%低減 することが出来るのではないか。
- ※本実験では、安全のため、通常想定される環境に比べ、換気風量がかなり多い条件下で燃焼時間等を計測している。通常の条件下ではより大きな効果が見込まれる。

論点整理

	置消を増やす 効果	燻焼を減らす 効果
RIPたばこ普及促進	0	×
綿ポリ布団等普及促進	Δ	0



- RIPたばこの普及促進により、置消を増やすことで、火種が布団の上に存 在する時間を短縮出来るため、たばこ火災の低減につながるのではないか。
- 着火物の違いにより燻焼を減らす効果が見込めることから、燻焼しづらい 布団の普及促進についても検討していく余地があるのではないか。